
モノクロ

綾瀬 夾李

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

モノクロ

【Nコード】

N8859A

【作者名】

綾瀬 夾李

【あらすじ】

いつかきちんと言えるようになったらいいな。あなたに「大好き」って。

1 太陽の謝罪

見つけた。今日も見つけた。

あなたは知らないかもしれないけど、あたしは毎日あなたのことを
見てるよ。

あなたの後ろ姿、大きな背中。

いつからだろう、あなたの姿を目で追うようになったのは。

いつからだろう、あなたの背中がたまらなく愛しいと思うようになったのは。

・・・いつになるんだろう、あたしの想いにあなたが気付いてくれるのは。

あなたと初めて話したのは、中2の春だったと思う。

あたし、あなたのことを好きって言う友達から呼んでくるように頼まれて。

仕方なく、隣のクラスに行ったの。

あなたに初めてかけた言葉は、「中浦太陽くんだよね、ちょっといいかな」。

振り返ったあなたは、あたしにこう言ったんだ。

「一ノ瀬季於・・・だっけ。俺になんの用なの？」

どうして初対面なのにあたしの名前を知ってたんだろ・・・

あたしがあなたに友達が呼んでいるというと、あなたははにかんだ笑顔を見せながら

「呼んでくれてサンキューな、季於」

って。二言目に呼び捨てにされたのに、全然イラつかなかった。

はにかんだ笑顔がとても可愛く、そして格好良く見えた。

友達の告白、あたし物陰から見ちゃった。

見に来ないでねって散々言われてたのに、気になっちゃったんだ。

友達の告白はとってもストレートで。

ただ一言「好きです」って言っただけ。

あなたはそんな友達に、ぽつりと言ったんだ。

「ありがと。・・・でも俺、彼女いるから」

友達は「そうですか」って言って、ぽろぽろ涙をこぼしていた。

あなたはそんな友達を、ただじっと見つめていた。

やがて友達は走り去り、あなたは一人残された。

・・・その時あなたが呟いた言葉を私は忘れない。

「彼女なんかいいねえよ・・・好きな奴はいるけど・・・嘘ついてごめん・・・」

その謝罪の言葉は、風に乗って消えた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8859a/>

モノクロ

2010年10月15日23時56分発行